単元デザイン　FIRST STEP　―小学校社会科―

1　単元デザインは何のため？

○ 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
○ 「指導と評価の一体化」の観点から、単元の指導と評価の計画を作成することが求められています。
○ 教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
○ 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。

2　単元をデザインする際のポイント

単元をデザインする際のポイントを押さえているか□に✔を付けて確認しましょう。

①　単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を設定します。

□学習指導要領の目標や内容、小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 社会編(以下、学習指導要領解説)を踏まえている。
□児童の実態や前単元までの学習状況を踏まえている。

②　単元の評価規準を作成します。

□国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(以下、「参考資料」)の巻末資料(p.77～)に示された「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考にして、学習指導要領に示されている「内容」の記述形式を基に作成している。

③　問題解決的な学習過程で単元をデザインし、指導と評価の計画を作成します。

□「課題把握→課題追究→課題解決」の流れで単元をデザインし、各時間の評価を行う観点及び評価する方法を決めている。
□単元の指導と評価の計画に、〔指導に生かす評価〕と〔記録に残す評価〕の場面を設定している。

④　児童が興味をもつように教材を工夫し、学習問題につながる資料を準備して、単元の学習問題を設定します。

□学習指導要領の内容を踏まえた上で、児童が興味をもつように身近なことを題材に挙げ、児童と学習内容を結び付ける教材の工夫をしている。
□具体的な事実から気付きや疑問が生まれ、学習問題の設定につながる資料を準備している。
□目標を踏まえた単元の学習のまとめを想定して、単元の学習問題をつくっている。

⑤　目標の実現に迫るための毎時間の学習活動を構想します。

□何のために「調べる」「話し合う」「まとめる」のかを明確にして、毎時間の学習活動を構想している。

上記の5つのポイントには、順番の決まりはありません。
相互に関連付けながら、行ったり来たりして単元をデザインしていきます。
上記のポイントを踏まえた、単元デザインの具体（例）を次に示します。

単元デザインの具体（第６学年「大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子」の単元を例に）

①　単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を設定します。

学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説と照らし合わせながら、児童の実態や前単元までの学習状況を踏まえ、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にして、単元の目標を設定します。

【具体例】「大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子」の単元

学習指導要領解説の内容(第6学年)

（2）ア(イ)　大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。
（シ）　遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。
　→ 知識・技能

イ(ア)　世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。
　→ 思考・判断・表現

学習指導要領解説　p.107

単元の目標

天皇を中心とした政治の確立について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、白地図や年表、文などにまとめ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

②　単元の評価規準を作成します。

「参考資料」の巻末資料(p.77～)に示された「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考にして、学習指導要領に示されている「内容」の記述形式を基に作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図や年表、文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え表現している。 ② 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

詳細は、佐賀県教育センターHP「学習評価の進め方」及び「学習評価 FIRST STEP」を御参照ください。

③ 問題解決的な学習過程で単元をデザインし、指導と評価の計画を作成します。

「課題把握→課題追究→課題解決」の流れで単元をデザインし、各時間の評価を行う観点及び評価する方法を決め、〔指導に生かす評価〕と〔記録に残す評価〕の場面を計画します。

指導と評価の計画(例)

問題解決的な学習過程(課題把握→課題追究→課題解決)で単元をデザインして、単元の評価規準を指導計画の中に位置付けていきましょう。

問題解決的な学習過程で単元をデザインする際のポイント

- ❶児童の気付きや疑問を基に、単元の学習問題を設定します。
- ❷単元の学習問題に対する児童の予想を基に学習計画を立て、課題解決の見通しをもたせます。

課題把握

- ❸毎時間の学習課題を追究していくための、調べる活動を設定します。
- ❹調べた事実を基に、複数の立場や視点で多角的に考えさせるため、話し合う活動を設定します。

課題追究

- ❺単元の学習問題を振り返り、調べたことや考えたことをまとめる活動を設定します。
- ❻学習したことを振り返ったり、新たな学習問題について考えたりする場面を設定します。

課題解決

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	評価の重点	評価方法と【評価規準】
1(本時)	聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくることができる。	○聖徳太子が行った政治について資料で調べ、学習問題をつくる。 ○聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰が、どのように受け継いでいったのか、という課題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。	記録	ノートの記述内容や発言内容から「当時の世の中の様子や聖徳太子の行った政治に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思－①】 ノートの記述内容や発言内容から「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態－①】
2	聖徳太子の死後、だれが、どのような国づくりを進めたのかを理解することができる。	○中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治について調べる。 ○中国の政治のしくみを取り入れたことによる日本への影響について、資料などを基に考える。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「大化の改新をきっかけに、天皇中心の政治が進められたことを理解しているか」を評価する。【知－①】
3	聖武天皇がどのようにして世の中を治めようとしたのかを理解することができる。	○平城京の様子や地方の人々のくらしの様子について調べる。 ○聖武天皇が行った政治について調べる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「聖武天皇の力の大きさや力の広がりを理解しているか」を評価する。【知－①】
4	聖武天皇の大仏づくりがどのように進められたのかを理解することができる。	○大仏の大きさや大仏造営にかけた願いについて調べる。 ○どのように大仏がつくられたのか調べる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「大仏づくりにかけた聖武天皇の願いや大仏を完成させた天皇の力の大きさを理解しているか」を評価する。【知－①】
5	奈良に都があったころ、日本が大陸から学んだことを理解することができる。	○遣唐使が日本にもたらしたものや鑑真の活躍について調べる。 ○この頃日本は、大陸との交流により、どのようなことを学んだのか白地図にまとめる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「この時代には、遣唐使や鑑真などの活躍により、大陸や仏教の影響を受けた文化が栄えたことを理解しているか」を評価する。【知－②】
6	学習問題について調べてきたことを整理し、3つの立場で天皇中心の世の中について説明できる。	○中大兄皇子、聖武天皇、農民、それぞれの立場で、天皇中心の国づくりへの思いをまとめ、比較することで、天皇中心の世の中について説明する。	記録	ノートに記述した吹き出しの内容から「学んだことを振り返り、いろいろな立場で天皇中心の世の中について考え、表現しているか」を評価する。【思－②】 ノートの記述内容や発言内容から「学習を振り返り、学習問題を追究し、解決しようとしているか」を評価する。【態－①】

この単元では、[知識・技能]の記録に残す評価は、事後のペーパーテストにて行います。

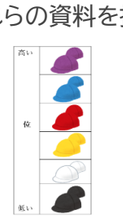
表中の「評価方法と【評価規準】」の詳細は、佐賀県教育センターHP「学習評価の進め方」及び「学習評価 FIRST STEP」を御参照ください。

資料の作成や学習活動の構想のヒントとして、「佐賀県小・中学校学習状況調査」の問題を活用することも有効な方法の一つです。

④ 児童が興味をもつように教材を工夫し、学習問題につながる資料を準備して、単元の学習問題を設定します。

学習指導要領の内容を踏まえた上で、児童が興味をもつように身近なことを題材に挙げ、児童と学習内容を結び付ける教材の工夫をし、具体的な事実から気付きや疑問が生まれ、学習問題の設定につながる資料を準備します。目標を踏まえた単元の学習のまとめを想定して、単元の学習問題をつくります。

これらの資料を提示すると、学習問題につながると思うわ！



聖徳太子が定めた冠位十二階や十七条の憲法ってどんなもの？

なぜ、中国に使者を送ったの？

聖徳太子は志半ばで亡くなったんだね。その後は、だれが政治を行ったの？

こんなに大きい大仏をだれが何のために、どうやってつくったの？

574	聖徳太子が生まれる
593	天皇を助ける役職につく
603	冠位十二階を定める
604	十七条の憲法を定める
607	遣隋使を送る
	法隆寺を建てる
622	聖徳太子が亡くなる

資料は、教科書や関係機関のホームページに掲載されているものを使ったり、実際に現地や関係機関に取材に行って収集したりして準備します。

児童の気付きや疑問を取り上げながら

単元の学習問題　「　？　」　学習問題の設定を！

単元の学習のまとめを想定して

単元の学習のまとめ
「中大兄皇子や聖武天皇などが、天皇中心の国づくりを進めるために、様々な政策を行った。」

単元の終末に、このような学習のまとめをするなら・・・

単元の学習問題は
「聖徳太子がめざした国づくりは、この後どのように進められていったのだろう。」
に設定しよう。

⑤ 目標の実現に迫るための毎時間の学習活動を構想します。

何のために「調べる」「話し合う」「まとめる」のかを明確にして、毎時間の学習活動を構想します。

学習問題を設定したら、**目的を明確にした**児童の学習活動を構想します。

調べる:**学習問題の解決に必要な情報を集めるため**に、観察や見学、聞き取りなどの調査活動・地図帳や地球儀、統計や年表などの基礎的資料などで調べる活動を設定します。

・中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治について調べる。
・聖武天皇が行った政治について調べる。　など・・・

話し合う:**複数の立場から多角的に考えたり、これからの社会について考えたり選択・判断したりするため**に、児童同士・教師と児童・ゲストティーチャーなどの外部の人・歴史上の人物や先人との対話的な活動(論理的な説明・立場や根拠を明確にした議論など)を設定します。

・中大兄皇子、聖武天皇、農民、それぞれの立場で天皇中心の世の中について説明する　など・・・

まとめる:**児童がなぜその方法でまとめるのかという目的や必然性を意識して、学習したことについての理解や思考を整理するため**に、調べたこと・分かったこと・考えたことなどを文章・白地図・年表・図表などにまとめる活動を設定します。

・学んだことを振り返り、複数の立場で天皇中心の世の中について考えたことを文章にまとめる　など・・・